

8-4-18 交通・安全専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 交通・安全専門委員会の開催

委員会開催回数：10回

(令和7年8月及び令和8年3月は休会)

(2) 自主研究

令和7年度は、『国内の道路調査業務の動向に関する研究』を主テーマに3つのサブテーマ

(WG①：道路事業評価、WG②：渋滞対策、WG③：交通安全対策)を設定して、近年の取り組み事例収集等の自主研究を行い、交通・安全に関する技術向上と新たな市場開拓に向けて実施した。

なお、自主研究はサブテーマ毎にワーキングを設置して進めた。

【WG①】では、国内の道路事業評価の説明資料から、事業の必要性(整備効果)を訴求する項目、費用便益分析において検討・考慮した多様な便益等の情報を収集し、交通・安全分野に携わるコンサルタント技術者が活用しやすいよう、一覧表として取りまとめた。

【WG②】では、国内の渋滞状況を俯瞰的に整理するとともに、主要渋滞箇所のモニタリング、ピンポイント渋滞対策、ソフト対策等について、渋滞対策協議会等の取り組み状況から情報を収集・整理した。

【WG③】では、国内の交通事故発生状況を俯瞰的に整理するとともに、事故ゼロプランや生活道路における交通安全対策等、全国各地で進められている取り組みについて整理した。

これら研究結果から、今後の建設コンサルタントの役割をとりまとめた。

(3) セミナーの開催

「道路事業評価の最新動向と多様な効果の便益算定手法について」として、以下のとおりセミナーを開催した。

- ・開催日：令和8年1月29日(水)
- ・開催方法：Zoomによるオンライン開催
- ・参加者数：約430名
- ・講演テーマ：講演① 国土交通省道路局企画課

評価室 小山 健一 氏「道路事業評価の最新動向について」、講演② 神戸大学大学院工学研究科 小池 淳司 教授「わが国の道路事業評価のこれまでとこれから」

(4) 見学会の開催

自主研究の一環として、令和7年11月20日(木)から11月21日(金)にかけて、大阪市なんば広場周辺、御堂筋周辺を対象に、道路空間の再配分による安全で快適な歩行空間の創出事例について実地調査を行った。

(5) 最新関連情報の収集

交通・安全に関するトピック的な事項について、今後の展開や建設コンサルタントとしての関わり方を中心に情報収集および意見交換を行った。令和7年度の主な内容は以下のとおり。

- ・地域の取組(能登半島地震復興関連イベント 大阪・関西万博に関連した道路交通分野の対策、ウーブン・シティの動向)
- ・データの利活用(道路データプラットフォーム、自治体オープンデータ)
- ・国の施策動向(交通政策審議会交通体系分科会地域公共交通部会、街路交通施策、第3次交通政策基本計画、ご当地ナンバー収益の活用、都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント、道路分野の脱炭素化基本方針)
- ・建コン協の活動概要

また、令和7年11月18日(火)に、多摩大学経営情報学部 樋笠 堯士 准教授を招き『混在交通に関する道路空間のあり方』をテーマとした勉強会を開催し、最新の知見を収集した。

2. 次年度の活動について

令和8年度においても、交通・安全分野に関するテーマで自主研究を行い、建設コンサルタントの関わり方について検討する予定である。また、研究テーマの内容に合わせてセミナー、現地見学会、フィールドワーク等を実施する予定である。

(交通・安全専門委員会委員長 永井 寿行)